

# 2021年3月期 第1四半期連結業績概要

専務執行役員  
山西 哲司

## 新型コロナ禍においてDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速し、リモートワークや5G関連の需要が期初想定以上に拡大

- 売上高は前年同期比8.1%減、営業利益は前年同期比26.4%減

- ↳ 厳しい市場環境の中、二次電池が堅調に推移しエナジー応用製品が増収増益を確保。

- ↳ マクロ需要が低迷した一方、新生活様式への移行に伴って在宅勤務・授業が増加し、PC、タブレットの需要が拡大。また5G基地局向けの需要が拡大。二次電池、MLCC、高周波部品の販売が増加し、全社収益を牽引。

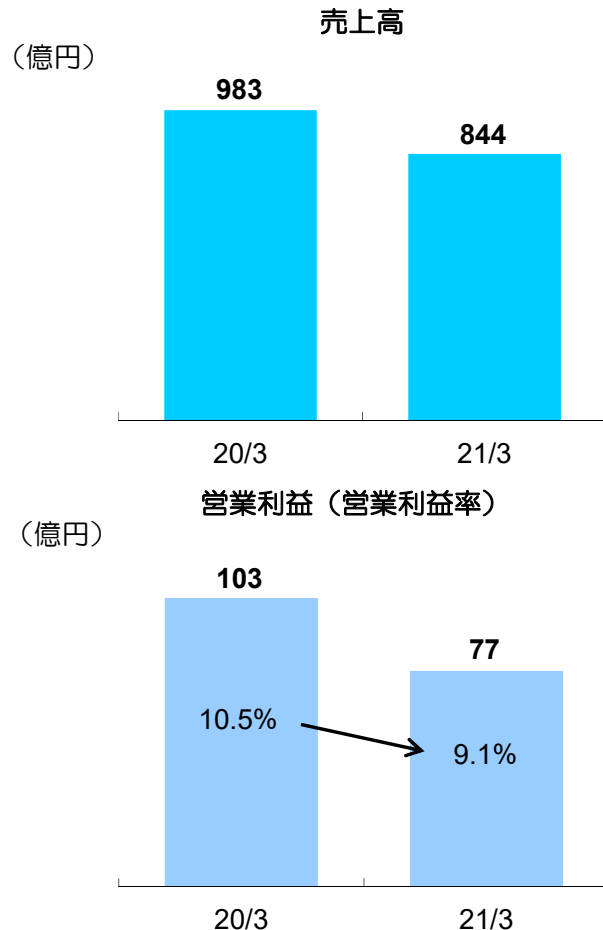
- ↳ 自動車市場の需要低迷により、自動車向けの受動部品やセンサの販売が想定以下の水準で推移。

- ↳ 新型コロナウイルス感染拡大を受け、アジアの一部でロックダウンした影響により、HDDヘッドの販売が想定以上に減少。

# 2021年3月期 第1四半期連結業績概要

(億円)	2020年3月期 第1四半期実績	2021年3月期 第1四半期実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	3,368	3,094	△ 274	-8.1
営業利益	250	184	△ 66	-26.4
営業利益率	7.4%	5.9%	-1.5 pt	-
税引前利益	247	207	△ 40	-16.2
当期純利益	156	132	△ 24	-15.4
1株当たり利益 (円)	123.43	104.43	-	-
為替	対ドルレート (円)	110.10	107.61	2.3%の円高
	対ユーロレート (円)	123.57	118.45	4.1%の円高
為替変動による 影響金額	売上高：約113億円の減収 営業利益：約13億円の増益			

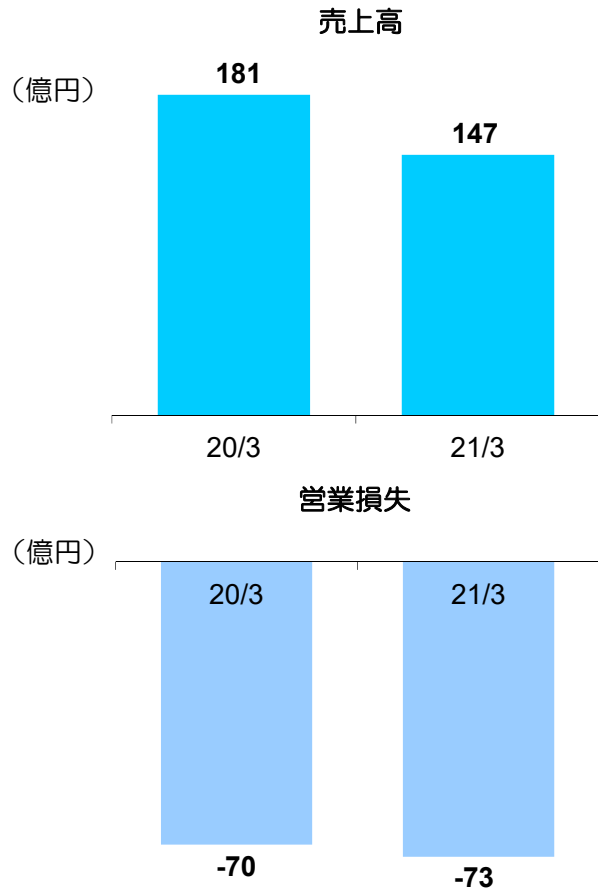
# 第1四半期各事業の状況（受動部品事業）



売上高 844億円（前年同期比14.1%減）  
営業利益 77億円（前年同期比25.2%減）

- セラミックコンデンサ
  - 前年同期比で減収減益。
  - ICT市場向けの販売が増加、自動車市場、産業機器市場及び代理店向けの販売が減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
  - 前年同期比で減収減益。
  - 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が減少。
- インダクティブデバイス
  - 前年同期比で減収減益。
  - 主に自動車市場向けの販売が減少。
- 高周波部品
  - 前年同期比で増収増益。
  - ICT市場向けに販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
  - 前年同期比で減収減益。
  - 自動車市場向け中心に販売が減少。

# 第1四半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

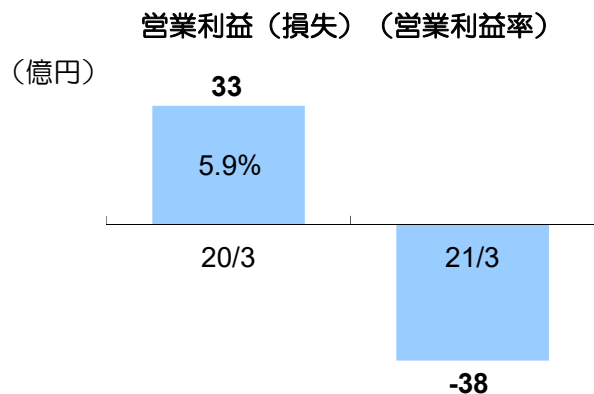
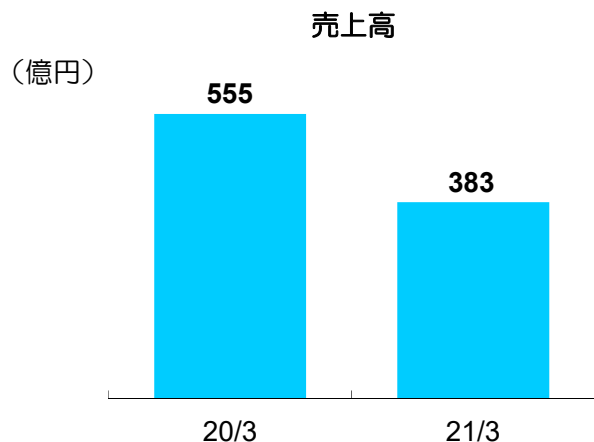


売上高 147億円（前年同期比18.8%減）  
営業損失 △73億円（前年同期比一%増）

## ● センサ

- 前年同期比で減収減益。
- 自動車市場向けのコンベンショナル製品（温度・圧力センサ、ホールセンサ）の販売が減少し、収益も悪化。
- TMRセンサは、ICT市場向け販売が拡大し増益。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びMEMSマイクロフォンのICT市場向け販売が減少。

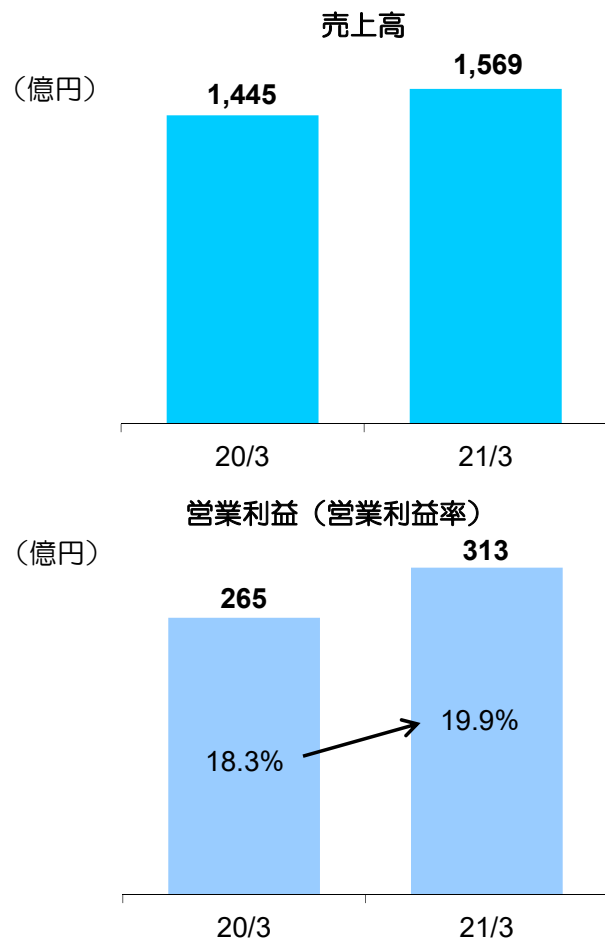
# 第1四半期各事業の状況（磁気応用製品事業）



売上高 383億円（前年同期比31.0%減）  
営業損失 △38億円（前年同期比一%増）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
  - 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、アジアの一部でロックダウンした影響により、HDDヘッドの販売が大幅減。
- マグネット
  - 売上は前年同期比で減少。
  - 自動車市場向けの販売が減少。

# 第1四半期各事業の状況（エネルギー応用製品事業）



売上高 1,569億円（前年同期比8.6%増）  
営業利益 313億円（前年同期比18.1%増）

- エネルギーデバイス（二次電池）
  - ↳ 前年同期比で増収増益。
  - ↳ 在宅勤務・授業の増加でタブレット・PC向けの販売が増加。
  - ↳ ゲーム機向けやミニセル製品の販売が拡大。
- 電源
  - ↳ 産業機器用電源は、前年同期比で減収減益。

# セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow



(億円)		2020年3月期 第1四半期 (A)	2020年3月期 第4四半期 (B)	2021年3月期 第1四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	393	377	333	△ 60	△ 15.3	△ 44	△ 11.7
	インダクティブデバイス	341	330	274	△ 67	△ 19.6	△ 56	△ 17.0
	その他受動部品	248	263	236	△ 12	△ 4.8	△ 27	△ 10.3
	受動部品合計	983	970	844	△ 139	△ 14.1	△ 126	△ 13.0
	センサ応用製品合計	181	187	147	△ 34	△ 18.8	△ 40	△ 21.4
	磁気応用製品合計	555	518	383	△ 172	△ 31.0	△ 135	△ 26.1
	エネルギー応用製品合計	1,445	1,183	1,569	124	8.6	386	32.6
	その他	204	145	152	△ 52	△ 25.5	7	4.8
	合計	3,368	3,004	3,094	△ 274	△ 8.1	90	3.0
営業利益	受動部品	103	67	77	△ 26	△ 25.2	10	14.9
	センサ応用製品	△ 70	△ 70	△ 73	△ 3	-	△ 3	-
	磁気応用製品	33	△ 115	△ 38	△ 71	-	77	-
	エネルギー応用製品	265	147	313	48	18.1	166	112.9
	その他	3	△ 58	△ 19	△ 22	-	39	-
	小計	334	△ 30	260	△ 74	△ 22.2	290	-
	全社および消去	△ 84	△ 84	△ 76	8	-	8	-
	合計	250	△ 114	184	△ 66	△ 26.4	298	-
営業利益率	7.4%	-	5.9%	-1.5pt	-	- pt	-	
為替	対ドルレート (円)	110.10	109.05	107.61				
	対ユーロレート (円)	123.57	120.32	118.45				



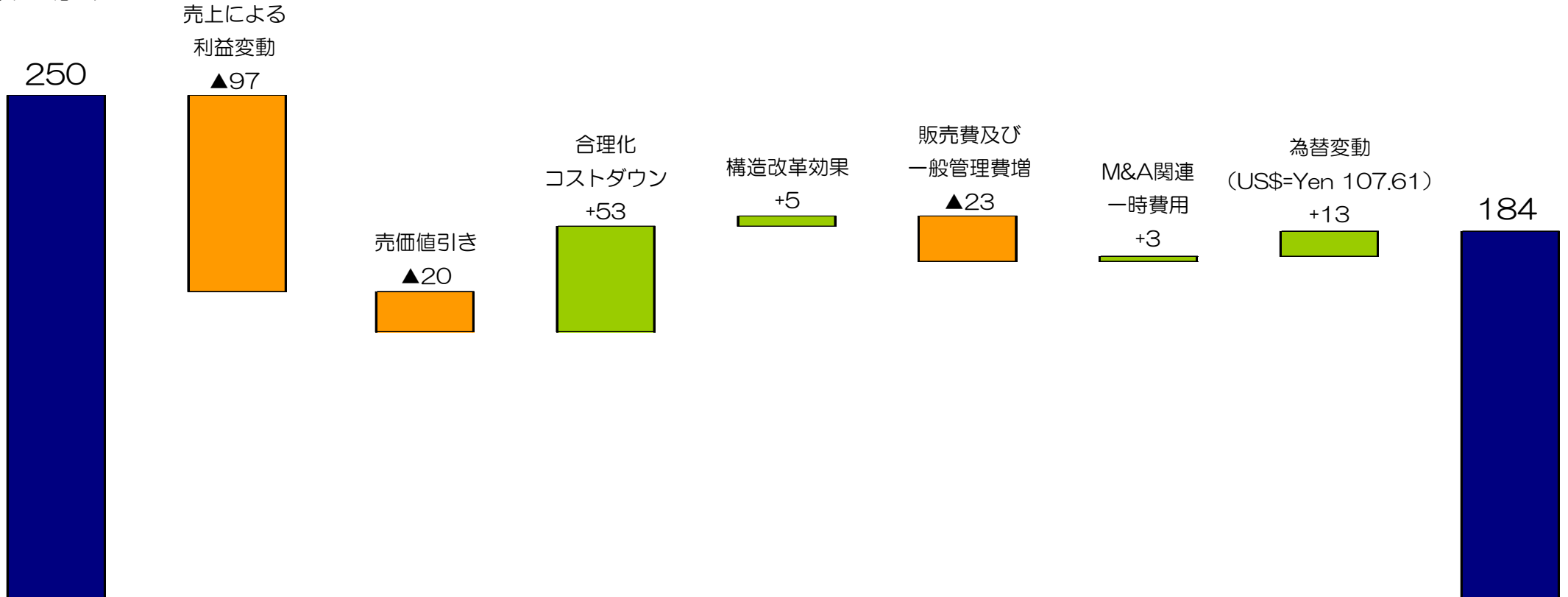
# 営業利益増減分析

2020年3月期  
第1四半期  
250億円

営業利益 ▲66億円

2021年3月期  
第1四半期  
184億円

(単位：億円)



# 第2四半期の売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2021年3月期 第1四半期実績	2021年3月期 第2四半期予想 (対1Q)
受動部品	844	±0%
センサ応用製品	147	+16~+19%
磁気応用製品	383	+23~+26%
エネルギー応用製品	1,569	+19~+22%
その他	152	—
<b>合計</b>	<b>3,094</b>	<b>+11~+14%</b>

為替前提

為替レート \$/Yen

107.61

105.00

為替レート EURO/Yen

118.45

117.00

# 2021年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow



(億円)		2020年3月期 通期実績	2021年3月期 業績予想 (2020年5月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		13,630	12,900	△ 730	△ 5.4
営業利益		979	700	△ 279	△ 28.5
営業利益率		7.2%	5.4%	-1.8 pt	-
税引前利益		959	700	△ 259	△ 27.0
当期純利益		578	480	△ 98	△ 17.0
1株当たり利益(円)		457.47	379.98	-	-
配当金		上期：90円 下期：90円 年間：180円	上期：80円 下期：80円 年間：160円	-	-
為替	対ドルレート	108.82	105.00	-	-
	対ユーロレート	120.92	117.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		1,734	1,800	66	3.8
減価償却費		1,250	1,400	150	12.0
研究開発費		1,175	1,200	25	2.1

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir\\_events/conference/2021/1q\\_1.htm](https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2021/1q_1.htm)